

非常に大事な事として人は誰でも間違えるということです。間違えたくて間違える人はいませんがそれでも間違えるのです。失敗は確率現象です。同じ要因があっても、全部が失敗になって出てくるということはありません。しかし、その時にハインリッヒの法則というのが出てきます。一件の重大災害の裏には、同じ要因で起こる30件、29件の軽微な災害があって、その後ろには同じ要因で起こる300件のヒアラーハットがあると。これがハインリッヒの法則で、非常に大事です。それから、失敗したくてする人はいない。そして、人の注意力には限界がある。責任の追求と原因の究明を分離しないとイケません。今、日本の法体系はこれができているので、みなさん、事故が起こったら警察が始末すると思っているでしょう。警察は、再発防止のための動きという事はやりません。日本の法体系を早く直さないといけません。そして、その時に何をやるのか。何をやらないといけません。免責というのをやらなければいけない。司法取引というのをやらなければいけない。懲罰的賠償というのを入れなければいけない。アメリカは全部出来ているからこれで再発防止が出来るけれども、日本は法体系として、それが出来ないような、体系になっています。そういうためにいろいろなものが起こっているのです。



写真 列車が突込んだマンション南側道路の踏切りを渡ったところから見る約100メートルの対向線に「特急北近畿3号」が停車中（2005年5月16日畑村撮影）

これは福知山線の事故を自分で見ていった時のものです。福知山線でマンションに巻きついて脱線したのが、きちんとした情報システムが働いていなかったために、なんと対向から来た北近畿3号というのは80メートルくらい現場の手前まで突っ走

てきて、自分で止まっているのです。そして、その後ろの丸くついた所をみてください。後続の快速があそこまで来ているのですよ。そういう事を報道しないとイケないのですが、報道ってこういう事を全然やっていないです。最初の頃に少し言っただけ。あと、現場でいかに大変だったか、被害者がどうだったかと、そういう報道ばかりしている。それより、もっとずっと重大なのは、JR西日本は、事故が起こった時にその後、それが拡大しないようにどうするかということをしちゃんとやれていなかったのです。なのに、これがみんな止まっているのは何故かという、踏切で近所を通った47才の女性が非常ボタンを押したのです。仮にその女性が押さなかったら、たぶん死者が500人くらいになっています。だから、みんながその気になって、全部やっていないといけません。特にひどいのが、脱線したのは非常通報するための電源が切れていたのです。

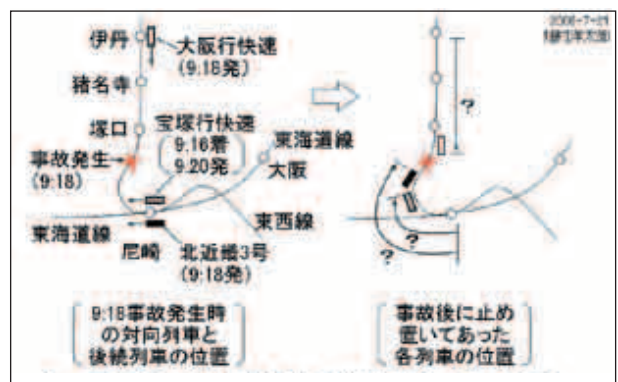


図 事故が起こった後に対向列車と後続車はなぜ走ったか？誰も止めなかった、三河島事故の知見は箱根の山を越えることはなかった

これは突っ込んだ方の電車の運転者の方から見た景色です。真ん前に見えているのが突っ込んでしまったマンションです。相当なカーブだったことがわかります。でも本当はおもしろいことを見ないといけません。レールをみてください。白い所の70の手前とかレールがないでしょう。白く書いているだけで、警察が押収してまだ返さない。だから、別のものがくっついていのです。一番大事だったのは何か。左の図は時刻表を見るだけで書けることです。事故が起こった時に、それぞれの汽車がどこに止まっていたかを時刻表だけで書きました。しかし、現場に行っ